

技術士第二次試験の21部門の一つである総合技術監理部門は、ほかの部門よりも上位の部門と位置付けられている。

ほかの部門では、一つの問題をどのように解決したかが重要だった。しかし、総合技術監理部門では、業務で生じる諸問題を総合的に解決する能力が要求される。まずは、この相違点を理解することが重要だ。

さらに、二律背反（トレードオフ）の問題に優先順位を付けながら、最適に解決したという答え方が総合技術監理部門では必要になる。

実際に想定問題を例に挙げて、答え方を示そう。例えば、「あなたの体験論文が総合技術監理にふさわしい理由を述べよ」という質問。まずは悪い返答例を示す。

「安全管理と経済性管理の二つの管理について述べる。安全面では、〇〇の対策を実施するなど万全の態勢を取った。また、コスト面では実行予算書の段階から検討を重ね、厳密な原価管理をすることで、最大の粗利益を上げることができた。このように二つの面で最適な対策を取れたことは総合技術監理にふさわしい」。

トレードオフの問題を意識して答

●口頭試験の想定問答の例

Q: 受験の動機は

A: 総合技術監理部門の資格を取得して、〇〇のような幅の広い高度な仕事がしたいから

Q: あなたの職務なら、総合技術監理部門の資格は必要ないのでは

A: 総合技術監理部門の資格がないとできない〇〇のような業務もあるので、ぜひ取得したい

Q: 管理職の仕事を進めるうえでの障害にはどのようなものがあるか

A: 社員の労務管理や協力会社との関係づくりなど

Q: 総合技術監理部門の勉強ではどのような点に苦労したか

A: 時事性の高い話題は、ニュースで調べた。自分の意見をまとめることに苦労した

※そのほかの想定問答の事例を、購読者限定サイト(<http://kenplatz.nikkeibp.co.jp/NCR/>)で提供します

えておらず、解答としてふさわしくない。では、以下のように答えるとどうか。

「安全管理と経済性管理の二つの管理について述べる。安全が優先された業務なので、確実な対策を取った結果、コスト面で負担増となった。しかし、〇〇を改善してコストを少し低減でき、赤字にならない程度で、両問題を最適化することができた」。

トレードオフの問題を意識して優先順位を付けつつ、優先しなかった方もそれなりに管理したという内容を表現していることがわかるだろう。

2008年度の技術士第二次試験の実施大綱をもとに、五つの項目に区分された口頭試験の試問事項に沿って、受け答えのポイントを解説する。

①五つの管理技術

総合技術監理部門で求められる五

つの管理技術（安全管理、経済性管理、人的資源管理、情報管理、社会環境管理）を理解して、それに沿って解決した内容を答える。

②技術的体験論文

ほかの部門と同じく、クライアントに対するプレゼンテーションを強くイメージすることが重要だ。①の内容をもとに解答する必要がある。

③業務経歴

受験申し込み時に提出した業務経歴票では確認できない受験の動機や、現在の主業務などへの質問が予想される。業務経歴票に示された業務については、①の内容をもとにした成功例や失敗例を準備しておくことがスムーズな解答につながる。

④技術士法

技術士の義務については、秘密保持と公益との関係や、資質向上や公益確保の責務について暗記しておく必要がある。

⑤その他

技術士制度における総合技術監理部門の技術体系第2版（いわゆる「青本」）を読んで、リスクマネジメントや継続研さんなどの基本的な事項を学習しておく。

次号から、添削事例などを充実させた新連載「技術士一直線2009」がスタートします



トマル経営技術コンサルタント代表
外丸 敏明

最終回●口頭試験の受け答え②

二律背反の最適化例を答える